様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月１６日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：２００７～２０１０
課題番号：１９７００５６３
研究課題名（和文）　「連携」概念を用いた家政学の新しい専門性に関する基礎的研究

研究課題名（英文）　New Special Knowledge of Home Economics using the Concept of Cooperation

研究代表者
小林　陽子（KOBAYASHI　YOKO）
群馬大学・教育学部・准教授
研究者番号：６０４０３３６７

研究成果の概要（和文）：
この研究は､多様化･複雑化する生活問題を解決するために要請される連携能力に着目した。家政学教育に必要とされる連携能力を明らかにするために、その基礎的階梯として、家政系学部から就職者を多数輩出する管理栄養士の連携能力形成プロセスと連携の質を左右する因子を明らかにすることを目的とした。とくに、近年、栄養士法改正や栄養療法に関する診療報酬の改定により、連携能力を必要とし、他職種と組織的な連携・協力を行っている医療分野で働く管理栄養士 10 名を対象に連携に関するインタビュー調査を行った｡分析方法は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。
結果以下のことが明らかになった。
(1) データから 25 の概念と、概念の意味のまとまりに基づいてカテゴリー化された 5 つのカテゴリーが生成された。
(2) 連携能力を形成するプロセスには、職場内連携努力プロセスと、職場外連携努力プロセスが存在し、双方向な関係があった。両努力は、連携深化へのステップへ進展した。
(3) 連携の質を左右する因子は、3 つの概念から構成された。これらは、連携制度の仕組み、高度な専門的知識や技術、総合的なマネジメント能力、であった。

研究成果の概要（英文）：
This study focuses on the ability to cooperate in solving diverse and complicated problems in our daily lives. It also aims to clarify the ability to cooperate, which is required for home economics education. At a fundamental level, this paper aims to make clear the dynamic process of developing national registered dietitians' ability to cooperate and its influential factors in order to make suggestions with regard to home economics education. Many national registered dietitians have come from the faculty of home economics. They work in medical institutions that have called for the ability to cooperate, particularly through revision of the Nutritionists Law and revision of medical fees for nutrition therapy, and they work in cooperation with people like doctors, nurses, pharmacists, etc. Therefore this study focuses on the job classification of national registered dietitians in medical institutions.

Data was obtained about cooperative activities through interviews with ten national registered dietitians with considerable work experience in medical institutions. The data was qualitatively analyzed by using the modified grounded theory approach.

Below is a summary of my findings:

(1) Twenty-five concepts and five categories classified according to conceptual meaning were created from the data.

(2) The process of developing national registered dietitians' cooperation consists of two types of effort: inside and outside their place of work. Furthermore, these two types of effort were interrelated and developed to improve development cooperation.

(3) There are three factors that control the quality of cooperation : set- up cooperation , professional knowledge and skills, and the ability to manage synthetically.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	0	0	0
2008 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般
キーワード：家政学、家政学教育、連携、管理栄養士、専門性、社会貢献、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

１．研究開始当初の背景

少子化・高齢化・国際化に伴う家族の問題は、家族を主題としてきた家政学において最重要課題である。家庭崩壊、子どもの虐待、いじめ、不登校、若者の早期離職、ニートの増加、食育問題など地域社会に生起する諸問題は、すべて家族や生活に関わることであるといっても過言ではない。これらの解決のためには、公私にわたる福祉や教育の支援主体（機関）が個別的役割や専門性を発揮するだけでは不十分で、それら相互の連携とネットワークづくりが不可欠である。ここで人間の生活の質の向上を目ざす「実践的総合科学」である家政学や家政学者の果たす役割が期待されるところであるが、大いに期待されているとはいいがたい。家政学が真の総合的実践科学となりうるためには、高度な専門を身につけた専門職の育成と、専門職員ひとりひとりに家政学的視点と連携に関わる能力が必要であると考えた。

２．研究の目的

そこで本研究は、連携とネットワークづくりの現状と課題を明らかにし、同時に福祉や教育主体の運営にあたって求められる連携に関わる家政学の新しい専門性とその形成方途を明らかにする。家政学教育に必要とされる連携能力を明らかにするために、家政系学部から就職者を多数輩出する管理栄養士の連携能力形成プロセスとその質を左右する因子を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

近年、栄養士法改正や栄養療法に関する診療報酬の改定により、連携能力を必要とし、他職種と組織的な連携・協力を行っている医療分野で働く管理栄養士を対象に連携に関するインタビュー調査を実施した。分析方法は、木下康仁による修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。

当該研究方法を採用した理由は、当該方法の研究適正がプロセス性を持った理論の生成に適合的であること、データを切片化しないで人間をできるだけトータルにとらえようとしていること、従来は客観性を欠く原因とされていた分析をする研究者のデータ解釈のばらつきを自然のこととし、その自然さを生かすために、分析の体系化と分析ワークシートなどの具体的手順を明示し、より深い解釈につなげようと提案がなされていたことによる。

４．研究成果

本研究は、多様化・複雑化する生活問題を解決するために要請される連携能力に着目した。家政学教育に必要とされる当該能力を明らかにするために、その基礎的階梯として、家政系学部から就職者を多数輩出する管理栄養士の連携能力形成プロセスと連携の質を左右する因子を明らかにすることを目的とした。特に、近年栄養士法改正や栄養療法に関する診療報酬の改定により、連携能力を必要とし、他職種と組織的な連携・協力を行って実践している医療分野で働く管理栄養士 10 名を対象にインタビュー調査を行った。分析は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用い、彼らが連携することによりどのような経験をしているのかを明らかにした。

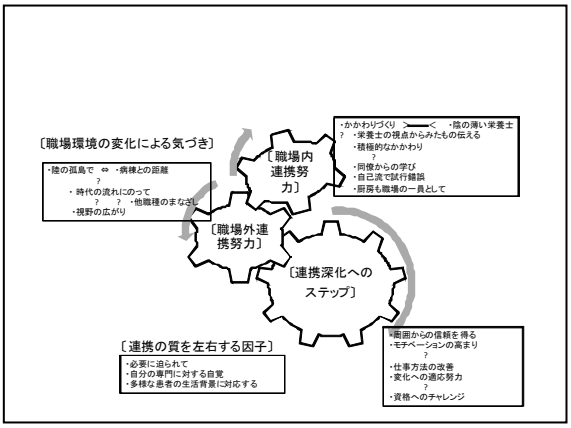

図１．管理栄養士の連携能力形成プロセス

分析結果から以下のことが明らかになった。医療分野で一定の継続した実践経験をもつ管理栄養士は、職場内連携努力プロセスと職場外連携努力プロセスを双方向に経験しながら連携を深化させていることが明らかになった。また、これらの連携の質を左右するものとして、制度の仕組み、高度な専門知識や技術、総合的なマネジメント能力３点が影響していることが明らかになった（図１）。

これらの得られた知見を、今後の家政学教育のカリキュラム開発のためにどのように活かすことができるのかを考えてみたい。今回生成された管理栄養士の連携能力形成プロセスは、彼らが業務経験をとおして得られたものであり、大学教育では獲得しづらいものと考えられる。しかし連携に影響を与える要素のうち、多様な患者の生活背景に対応する総合的なマネジメント能力や、高度な専門知識や技術は、大学教育のカリキュラム構成に導入でき、現行の管理英両氏のカリキュラムにおいても実践されている。家政学教育としての独自性を求めるならば、総合的なマネジメント能力の育成は、栄養という専門からの視座だけではなく、患者の生活全体を読み取る意味で、栄養意外を専門とする学生との学び合いから実現したい。こうした学びが家政学的な視点につながると思われるし、連携形成能力の質を高めることにもつながると考える。コメディカル教育においては、教育のパラダイムシフトが叫ばれ問題解決型教育が推奨されている。家政学教育においても、たとえばひとつの生活問題をテーマに他学科の学生どうしが問題解決的に学ぶことが考えられる。

しかし以上は、医療分野で働く管理栄養士を対象とした調査から導きだされた知見からの提案である。今後は家庭科教諭などの他職種を対象にした同様の調査と計量調査を実施し、さらに家政学教育に必要とされる連携能力を追究してゆきたいと考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１　件）

①小林陽子、管理栄養士の連携能力形成プロセスと影響因子、日本家政学会誌、査読有、62 巻 6 号（通号 554 号）、2011 年、印刷中

〔学会発表〕（計１　件）

①小林陽子、管理栄養士の連携の現状と課題―家政学の新しい専門性に関する基礎的研究の一環として―、第 62 回（社）日本家政学会、2010 年 5 月 29 日、広島大学（広島）

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　陽子（KOBAYASHI YOKO）
群馬大学・教育学部・准教授
研究者番号：６０４０３３６７